

(防湿・防雨・防塵型)

密閉型蛍光灯器具

保管用

タイプ	品番	外被保護構造
乳白カバー	FSE42510K	I P 54
プリズムカバー	FSE42511K	

・器具の施工には電気工事士の資格が必要です。施工は必ず工事店に依頼してください。

施工説明

工事店様へ、この説明書は保守のためお客様に必ずお渡しください。

安全に関するご注意

警告

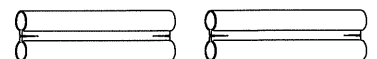
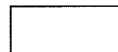
- 施工は、取付方法にしたがい確実に行う。施工に不備があると火災・感電・落下の原因となります。
- 器具を改造しない。火災・感電・落下の原因となります。
- 表示された電源電圧(定格電圧±6%)・周波数で使用する。
指定外の電源電圧・周波数で使用すると、火災・感電の原因となります。
- 取付面の凹凸が大きい場合は、隙間を埋める。防水機能が低下し火災・感電の原因となります。

注意

- 振動のある場所では使用しないでください。
落下・感電・火災の原因となります。
- 周囲温度は、5~35℃で使用する。指定外の周囲温度で使用すると、ちらつきや短寿命の原因となります。
- サウナなどの高温になる場所には使えません。加熱による火災の原因となります。

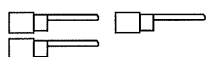
付属部品

- 電源ブッシング
 取付ブッシング(2個)
 カバーのはずし方ラベル
 保護チューブ(2セット)



- 端子セット(3個)

- ワッシャー(2個)

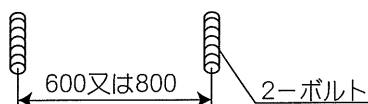


(1セットは送り施工の際に
使用してください)

各部のなまえと取付け方

1 取付前の確認

- 取付寸法(600mm又は800mm間隔)を確認してください。
- 器具質量(5.7kg:FSE42510Kの場合)に十分耐えるよう取付ボルトの強度を確保する。
取付ボルトはW3/8又はM10を使用する。
不備があると器具落下の原因となります。

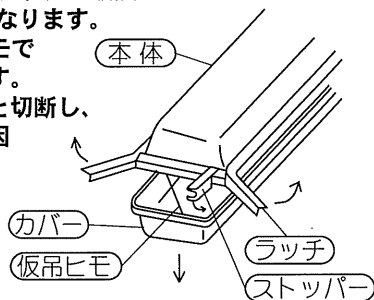


2 取付前の準備

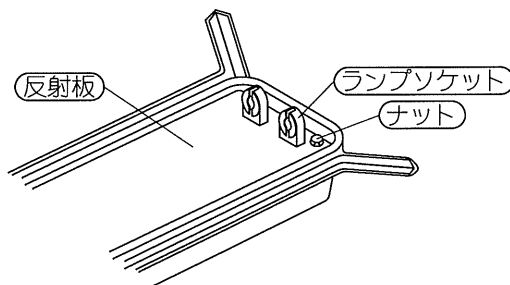
- 器具を箱から取出す。
器具に衝撃を与えたり、落下させないでください。
破損・落下の原因となります。

各部のなまえと取付け方

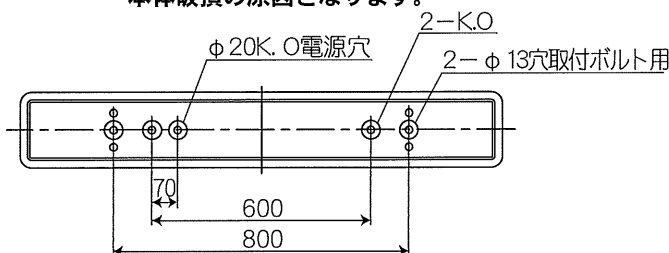
- 3 ● ストッパーとラッチを開き、カバーを外す。
過度の力を加えるとラッチが破損し、落下・感電の原因となります。
(注) カバーは仮吊ヒモでつながっています。
無理に引っ張ると切断し、カバー落下の原因となります。



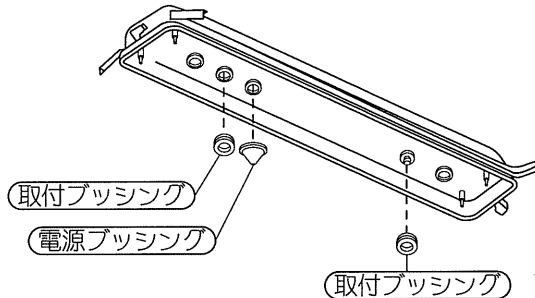
- 4 ● ナット4個を外し、反射板を取外す。



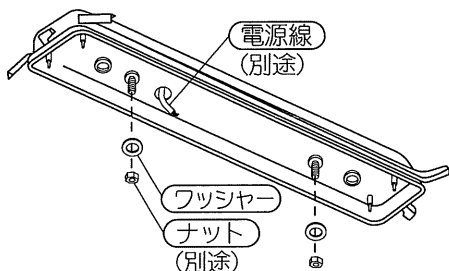
- 5 ● 取付寸法(600mm又は800mm)を再度確認し、本体の取付穴と電源穴を開く。
使用する取付穴と電源穴以外は開けないでください。
感電・火災の原因となります。
(注) 穴を開くとき過度の力を加えないでください。
本体破損の原因となります。



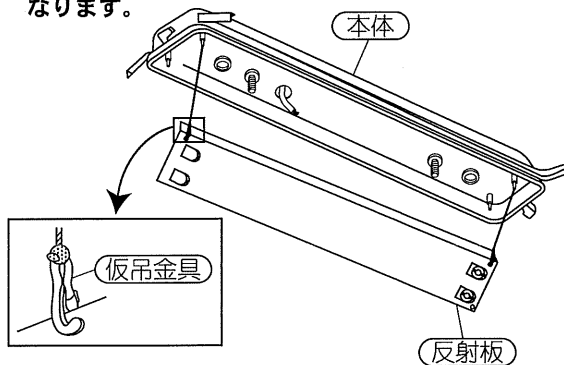
- 6 ● 取付穴と電源穴に同梱しているブッシングを取付ける。
不備があると器具性能を損ない、感電・火災の原因となります。



- 7 ● 電源線を電源ブッシングの中央穴より本体内に引き込む。
● 取付ブッシングの中央穴より取付ボルトを通す。
● ワッシャー(同梱品)とナット(別途)で本体を取付ける。
不備があると落下・感電・火災の原因となります。
● 取付部と電源引込み部にコーキング工事を行ってください。
不備があると浸水による感電・火災の原因となります。



- 8 ● 反射板を2本の仮吊金具で仮吊りする。
不備があると反射板落下・破損・ケガの原因となります。



- 9 ● 電源線に付属の保護チューブを差し込み、電源端子台に接続する。

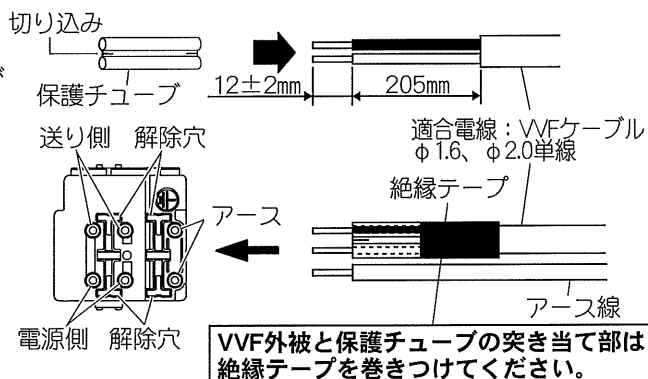
- 電源線に保護チューブが通るよう加工する。
- 保護チューブを必ず電源線に差し込む。
- VVF外被と保護チューブに絶縁テープを巻きつける。
注) 器具取付状態で、天井面の内側に保護チューブが入り込む為、天井面の電源線出口の位置まで絶縁テープを巻きつけてください。

取り付けない場合、火災、感電のおそれがあります。

- 電源線を確実に差し込む。
接続が不完全な場合、容量オーバーした場合、火災・感電の原因となります。
- アース線を確実に差し込む。
[D種(第3種)接地工事が必要です。]
- 端子台の容量は20Aです。
不備があると感電・火災の原因となります。

(注意) 送り施工の場合、送り施工用の電源線にも、保護チューブを使用する。

器具の取り替え等で電源線を外す場合は、マイナスドライバー等を、解除穴に差し込みながら電源線を引き抜く。



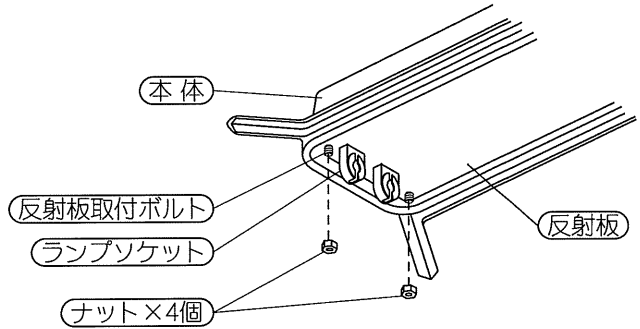
警告




保護チューブを切断しない
火災、感電のおそれがあります。

禁止

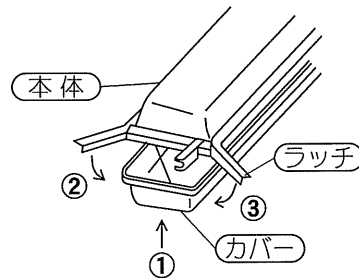
- 10 ●反射板を取付ける。
 ナットで反射板を本体に取付ける。(4カ所)
 必ず4カ所の固定をしてください。
 不備があると落下・感電の原因となります。
 反射板と本体の間に電線・仮吊ヒモが噛み込まないようにしてください。
 不備があると感電・火災・落下の原因となります。



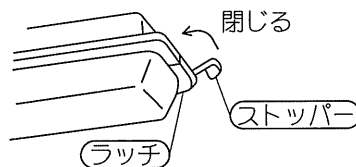
- 11 ●ランプを取付ける。
 (注)指定のランプをご使用ください。
 Hf蛍光ランプ FHF32
 Hf専用ランプをご使用ください。
 指定外のランプを使用すると、漏電・火災の原因となります。
 ランプピンをランプソケット開口部より左・右水平に挿入し、ランプを1/4回転して取付ける。
 不備があるとランプ落下や火災の原因となります。



- 12 ●カバーを本体に押しつけ、ラッチを閉じる。
 (注)ラッチの操作は片側づつ確実にはめてください。
 過度の力を加えたり、不備があると破損・落下・感電の原因となります。



- 13 ●両端のストッパーをはめ、ラッチを固定する。
 不備があると落下の原因となります。
 ●カバーの外しかたラベルを器具に貼付ける。



取扱説明

お客様へ、この説明書は必ず保管してください。

・ご使用前にこの取扱説明書を必ずお読みのうえ、正しくお使いください。

安全に関するご注意

警告

- 器具を改造しない。火災・感電・落下の原因となります。
- 煙が出たり、変な臭いがするなどの異常状態のまま使用しない。感電・火災の原因となります。すぐに電源を切り、工事店に修理を依頼してください。

注意

- ランプ交換やお手入れの際は、必ず電源を切って、しばらくしてから行う。感電・やけどの原因となります。
- 照明器具には寿命があります。設置して10年^{*}経つと、外観に異常がなくても内部の劣化は進行しています。点検・交換してください。
 ※使用条件は周囲温度30℃、1日10時間点灯です。
- 周囲温度が高い場合・点灯時間が長い場合などは寿命が短くなります。
- 1年に1回は「安全チェックシート」に基づき自主点検してください。
 3年に1回は工事店等の専門家による点検をお受けください。
 点検せずに長期間使い続けるとまれに火災・感電・落下などに至る場合があります。
- アルカリ系洗剤は使用しない。強度低下による破損の原因となります。

使用上のご注意

- 短寿命の原因となりますので直射日光の当たる状態では点灯しないでください。
- ラジオ、テレビや赤外線リモコン方式の機器は照明器具から離してご使用ください。
雑音が入ったり、正常に動作しない場合があります。
同時通訳機等の誘導無線をご使用になられる場合、雑音が入る場合があります。
事前に確認し、対策を講じてください。

保証について

- 保証について …………… この商品の保証期間は1年間です。但し、安定器は3年間です。
ランプ・グロー点灯管・電池等の消耗品は除きます。
詳細は弊社カタログをご参照ください。
- 保証書について …………… 保証書が必要な場合は、弊社代理店または弊社営業所へお申し出ください。

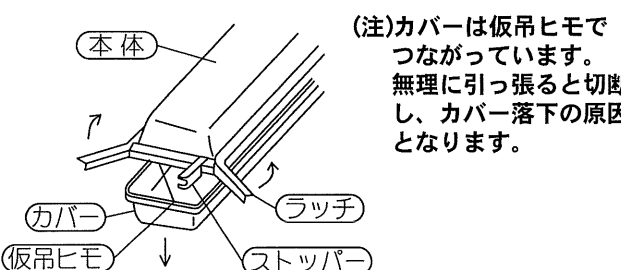
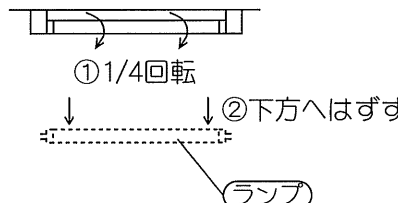
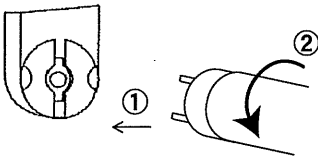
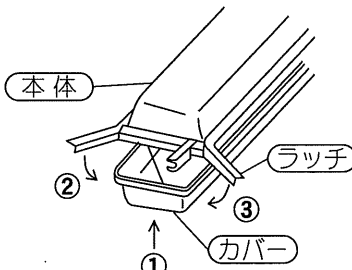
お手入れ・ランプ交換 **⚠注意** 必ず電源を切って行ってください。感電・やけどの原因となります。

- 器具の清掃について …… 水または中性洗剤を用いて、汚れた部分を軽く拭き取ってください。
シンナー、ベンジン、アルカリ系洗剤でふかないでください。
変色、変質、強度低下による破損の原因となります。
- ランプ交換について …… 本体表示にしたがって、下記の指定された部品を使用してください。
(パナソニック製の蛍光ランプをご使用ください。)

交換部品

Hf蛍光ランプ	FHF32EX
---------	---------

ランプ交換

<p>1 ●ストッパーとラッチを開き、カバーを外す。 過度の力を加えるとラッチが破損し、落下・感電の原因となります。</p> 	<p>2 ●ランプを水平に1/4回転させ、下方へはずす。 急激に過度の力を加えるとランプ・ソケットが破損し、ケガ・落下・感電の原因となります。</p> 	
<p>3 ●ランプを取付ける。 (注)指定のランプをご使用ください。 Hf蛍光ランプ FHF32EX Hf ランプ専用 Hf専用ランプをご使用ください。 指定外のランプを使用すると、漏電・火災の原因となります。 ランプピンをランプソケット開口部より左・右水平に挿入し、ランプを1/4回転して取付ける。 不備があるとランプ落下・火災の原因となります。</p> 	<p>4 ●カバーを本体に押しつけ、ラッチを閉じる。 (注)ラッチの操作は片側ずつ確実にはめてください。 過度の力を加えたり、不備があると破損・落下・感電の原因となります。</p> 	<p>5 ●両側のストッパーをはめ、ラッチを固定する。 不備があると落下の原因となります。</p> 